

新基地建設反対名護共同センターニュース

猛暑の中 県民大会に4万5千人



オスプレイ墜落事故に抗議し、普天間基地の早期閉鎖・撤去を要求する特別決議を採択

“翁長知事を支え、辺野古に新基地を造らせない”

辺野古に新基地を造らせないオール沖縄県民会議主催で12日、「翁長知事を支え、辺野古に新基地を造らせない県民大会」が那覇市内で開かれ、猛暑の中4万5千人が参加。新基地建設やオスプレイを押し付ける日米両政府への県民の熱い怒りと、勝つまであきらめない「不屈性」を改めて示しました。

大会ではオール沖縄会議の共同代表などが挨拶、顧問の沖縄選出国會議員などが紹介されました。稲嶺進名護市長が「知事を支え、陸にも海にも新基地は絶対に造らせない」と表明。翁長雄志知事は「工事差し止めの訴訟を起こしたが、時機を見て埋め立ての“撤回”も必ずやります」と力強く発言し大きな歓声に包まれました。参加者全員でパネルを掲げアピールしました。(写真中央は稲嶺市長、右端は翁長知事)



「米軍が最も恐れた男」那覇市で公開—長蛇の列に



佐古忠彦監督のドキュメンタリー映画「米軍が最も恐れた男」その名は、カメジロー」が、全国に先立って那覇市の桜坂劇場で12日から公開されました。初日午前中は、10時の上映前30分以上前から数百人の長蛇の列ができ、多くの人が入り切れない状態でした。

上映前から拍手、上映後はさらに大きな感動の拍手に包まれました。上映後、佐古監督があいさつに立ち、映画をつくるにあたっての思いなどを語って会場の共感を誘いました。最後に客席に入り記念写真を撮りました(前列中央が佐古氏)。

